

地域おこし協力隊 ネットワーキング愛媛 活動報告

多様化するミッションに対応するネット
ワーク組織

令和元年9月現在、愛媛県内に現役として活動する地域おこし協力隊は102名（過去も合わせると20市町中19の自治体が導入）となった。地域おこし協力隊制度がスタートして10年、今ではミッションも様々でキャラクターも多様な人材が地域おこし協力隊として愛媛県へ移住し活躍している。しかし、市町によって県内の地域おこし協力隊と担当者との連携や待遇・条件等で格差が生じている現状があり、様々な悩みを抱える隊員も少なくない。それらの問題を解消するべく、現役地域おこし協力隊が任意で参加し、県内の隊員同士が繋がることのできる組織として任意団体「地域おこし協力隊ネットワーキング愛媛」を立ち上げることとなった。

愛媛県では県主催の「地域おこし協力隊集落支援員交流研修会」を開催し、毎年多くの参加者が集まり交流の場となっているが、各地域に属しそれぞれ多様なミッションを課されている彼らに

とつて、全員が共通する研修を行うことは困難になってきている。ヒヤリングをしてみても「地域や行政との関係性」といった悩みから「地域（資源）のPR」「地域での生業」など起業に関することまで様々。このようなニーズに対応するため、愛媛県主催の研修会とは別にもう少しテーマを絞った少人数を対象にした研修会や勉強会を企画するに至った。今回はこの「地域おこし協力隊ネットワーキング愛媛」が企画したいいくつかの研修会をご紹介します。

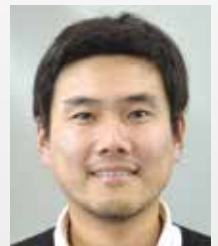
大三島での生業づくり研修

今治市大三島で開催した起業ワーク



今治市関前諸島岡村島での研修会

ショップ「地域×生業づくり〜大三島編〜」では、起業に向けた実践的な内容に特化した1泊2日の研修会を企画した。研修会の舞台となった大三島では、現役・OBの地域おこし協力隊や移住者も多く、クラフトビール、パン屋、ラーメン店、ゲストハウス、カフェなど様々なフィールドで活躍をしている。彼らの同時多発的に点在する「生業」が線となり、面となって大三島という地域を活性化させているのである。このように移住者による、起業までの準備、経営に関する実例など、実際に見学しながら話を聞くことができる、実践的な研修会とした。ファシリテーターとして、大三島でゲストハウス



えひめ移住
コンシェルジュ
板垣 義男



起業した移住者を訪ねたフィールドワークの様子